

安全に関する改善提案

記入日：2006年 4月 20日

(所属会社) (氏名) (連絡先電話番号)

記入者：

設計・施工区分	工種	想定される事故の種類	想定される事故の要因	危険作業の種類
施工	コンクリートダム堤体工	重機事故	人的要因・その他	近接作業・はさまれ

改善の概要： 警報が鳴る蛍光チョッキを、作業員・職員が着用
 とりわけRCD工法によるコンクリート打設作業では、ブルドーザ・ホイールローダ・ローラ等の重機作業と、水取り等の人力作業が近接して行われる。この混在作業における安全対策のマンネリ化を防止する目的で重機が接近(10m～2m程度で任意に調節可能)した場合に警報が鳴る蛍光チョッキを着用させた。

メリット： 重機の死角対応 安全確認のマンネリ化の防止	デメリット： ワンセット(センサー2基、チョッキ10着)で80万円程度と高価。 通常の蛍光チョッキより若干重い。
--	---

改善前 (略図または写真)
 一般的な蛍光チョッキ
 お互いに作業に夢中になると注意力が散漫になり、重機接近に対しマンネリ化し災害発生の要因となる。



改善後 (略図または写真)
 警報機能付き蛍光チョッキ
 ローラが3m以内に接近すると、チョッキから警報が鳴ります



センサー




打設作業員・職員は、打設作業で打設エリアに入る場合は、必ず警報機能付きの蛍光チョッキを着用する。